

オススメ本案内コーナー

河合 俊宏^{1), 2)}

- 1) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 相談部身体障害担当
2) 一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会 代表理事（会長）

協会の関連書籍ということで3冊紹介させていただきます。

生活支援工学概論

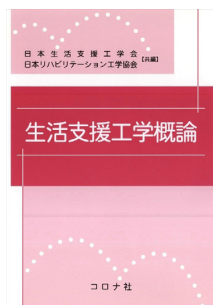
日本生活支援工学会・

日本リハビリテーション工学協会

共著

コロナ社、2013年発刊

ISBN978-4-339-07235-8



<https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339072358/>

協会員歴が長い方には、今更の書籍です。2019年に重版され、入手が容易になっています。執筆者の一人ということで紹介します。

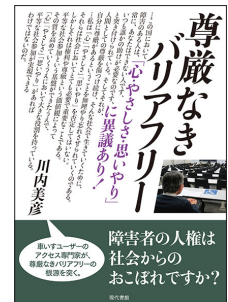
大学等の高等教育機関で、「生活支援工学」や「リハビリテーション工学」の講義がされています。以前は工学系の学科・専攻コースがありましたが、多くが変遷し、研究室単位や、講義授業となっています。福祉系やデザイン系でも講義が開講されているところがあります。分野を幅広く習得するための入門書として、いまだに使われている教科書と思います。

尊厳なきバリアフリー 「心・やさしさ・思いやり」
に異議あり!

川内美彦 著

現代書館、2021年発刊

ISBN978-4-7684-3584-7



<http://www.gendaiishokan.co.jp/goods/ISBN978-4-7684-3584-7.htm>

協会員の皆さんには、必ず読んでもらいたい書籍のため、紹介します。

川内先生はアクセシビリティの専門家であり、ユニバーサル・デザインの基本的な概念を、日本に幅広く普及されたうちの一人です。

ユニバーサル・デザインの概念で、多くの方が恩恵を受け、生活の質が向上しています。

本書は、アクセシビリティのうちハードウェアの整備は日本では進んできたが、そもそもの目的を見失っているのではないか?ということ強く訴えていると思います。

協会員の皆さんに読んでもらいたいと思うのは、私自身も関わっていたハンドル型電動車椅子の事を、「ハンドル型電動車いすに対する差別」として章立てされています。確かに排除する方向にある仕事などは感じていましたが、誰かがやらねばならないということで、数年にわたり関わっていました。当協会の数名も関わっていました。

技術開発は、多くの人の生活の質を上げます。リハビリテーション工学は、障害がある方や高齢で不自由なことを、技術的に解消する方向性にはあると信じていますが、一方では政策的・社会実験の過程で、

1) 埼玉県総合リハビリテーションセンター

相談部身体障害担当

E-mail : ret.kawai+resja2022@gmail.com

人権や尊厳を損ねるということ、鋭く指摘されていると私は思いました。

そもそも日々の仕事でも、法・規則に則った案件が多いので、簡単に越境できませんが、常に人権意識を持つ必要性を感じ、日々反省していることでもあります。

反省するために読んで欲しいわけではありませんが、反対しなければ同意していることには変わりません。無視・無関心も同様かと思えます。

活字で活用できない方向けに、テキストデータの提供があります。

書籍に関連して、川内アクセス塾というネットイベントが月に一度開催されてきました。今年度は終了しましたが、4月から開催される計画です。Facebookグループで、案内が紹介されますので、気になる方は参加されてみては、いかがでしょうか？

<https://bit.ly/3r21a0m>

無駄なマシーンを発明しよう！

独創性を育むはじめてのエンジニアリング

藤原麻里菜 著

技術評論社、2021年発刊

ISBN978-4-297-12213-3



<https://gihyo.jp/book/2021/978-4-297-12213-3>

協会員ではない方の書籍です。

個人的な話ですが、所属していたリハビリテーション工学科が、2021年3月で廃止となりました。福祉工学担当、リハビリテーション工学研究室、福祉工学研究室と、毎年のようにあり方を、所属している職員抜きで検討されてきていました。とにかく存在が無駄と言われ続けてきましたが、障害がある患者さんは相談に来るし、医療スタッフの中であてにしているという思い込みもありました。一方では県内に限らず中小企業からの技術相談は多く、気にしないでやってきました。

廃止決定にはサラリーマンですので逆らわず、別の仕事をしていますが、この本に出会ってハッとしました。

リハビリテーションの現場にいるエンジニアは、実際の患者さんに使ってもらえるまでに100回以上は、実験や試作といった試行錯誤をしているのではないのでしょうか？

その試行錯誤の中での成功事例が、リハ工学カンファレンスで報告されてきていると思います。

ハットしたのは、もっと失敗を人に見せれば、良かったのかも？という点です。何をしているのかわからない、こんな簡単なものなのに数年もかかった、見た目が悪いといった言葉は、結構言われてきましたが、やはり気にしないとイケなかったのです。

本書からは人に見せることの大切さを感じました。電子書籍版もあります。